中村平八先生定年退職記念号に寄せて

経済学部長　山　本　　通

中村平八先生は，平成18年3月31日付けをもって本学を定年ご退職されました。

先生は昭和11年に長野県の諏訪にお生まれになりました。諏訪清陵高校を経て昭和29年に東京外国語大学ロシア語学科に入学しました。ここに非常勤講師として出講していた宇高基輔教授の「ソヴィエト経済論」の講義が，中村先生を学問研究の世界に導いたようです。宇高教授を慕って昭和34年に東京大学大学院社会科学研究科に進んだ中村先生は，ここでソヴィエト経済の研究に専念しました。大学院単位取得後，本州大学などで教鞭をとった後，神奈川大学に着任されたのが昭和45年（1970年）。学園紛争の只中の時期でした。以後36年間，中村先生は本学の教育と研究に貢献してこられました。

私が大学院を終了して本学に就任したのは昭和51年ですが，神奈川大学ではいまだに学生運動が盛んで，「大衆団交」と称するものがしばしば行われていました。このような状況にもかかわらず教授会でオシャレを競い合う教授が多かった中で，中村先生はボサボサ頭でゴム長靴を履き，ノーネクタイで通し，学生たちと語り合い，学部行政の一端を担って奮闘しておられました。若い教職員や学生たちにいつも親しく接した中村先生は，学生たちだけではなく，多くの教職員からも慕われていました。青二才の私にとっては，中村先生は大きな，頼りがいのある存在でした。先生はそのころから，経済学科主任，第二教務部長，評議会評議員などの要職を歴任され，経済学部第二部主任として実に6年間にわたり夜間部教育の充実に取り組まれました。平成3年から2年間，経済学部長を勤められ，その後，経済貿易研究所所長も勤められました。

中村平八先生は，大学内ではご自分の研究室よりは大学院の各国経済研究室におられることのほうが多かったのではないか，と思います。故冨岡倍雄教授，故梶村秀樹教授，後藤晃教授，松本武祝教授などと協力して，中村先生は多くの研究者をこの研究室で育てて，世に送り出しました。国内外の大学で教鞭をとっている各国経済研究室の卒業生は10名を超えると思います。

経済学部では中村先生は，当初「ソ連経済論」を担当されていましたが，その担当科目名がのちに「ロシア経済論」に変わりました。これはもちろん，ソ連経済が崩壊したからですが，この事実が中村先生に与えた衝撃については，想像に余るものがあります。名著『発展途上社会主義』を著された中村先生が退職間際に出版された著書の題名は『ソ連邦からロシアへ』です。崩壊から立ち直ったロシアは今やBRICsの一翼を担い，大国への復活の道を歩んでいます。数年前に大病を患われ，それから見事に生還された中村先生が，今後ともロシアを見つめながら健筆を振るわれることを，私たちは心から願っております。